

2024-25 RIテーマ

ロータリーのマジック



祝ロータリー創立120周年

Rotary's 120th Anniversary

Founded on February 23, 1905 in Chicago

WEEKLY

Rotary

Club of Toyohashi

RI D2760



2024-25 クラブテーマ

集い、学び、そして実践してこそロータリー
～奉仕の受け手と喜びを分かち合おう～

1950年8月10日創立

ロータリー創立120周年記念例会①

国際奉仕について

国際奉仕委員会担当

「国内でできるロータリークラブ国際奉仕活動」

卓話「国内でできるロータリークラブ国際奉仕活動」

地区国際奉仕委員会 委員 筒井 健 氏



海外にネットワークのあるクラブは地区全体の約3割で、パートナーシップになれるクラブはその中の3割ほどしかないため、ほとんどのクラブが海外での活動ができないのが現状です。

そうした状況の中、岡崎城南RCでは国内でできる国際奉仕活動を開始しました。そのきっかけとなったのは、国際交流協会と協力し、新型コロナウイルス感染拡大以降開催されていなかった多文化共生フェスティバルを復活させたことです。当初、この事業に割り当てられた委員会の予算は3万円でしたが、会員増強委員会の予算やニコボックスの寄付金を使い、24万円で開催することができました。岡崎市や様々な協会の協力を得たことで、会場費は無料になり、イベントの告知もしていたき、決してロータリー単独で大きな事業を行う必要はないのではないかと思います。

外国の方についての問題としては、運転免許の未取得や、無免許でのキッチンカー出店、公共施設の利用についての認識不足、災害時の対応、自治会や学校でのコミュニケーション、就労活動等があります。これらはロータリークラブが国際奉仕活動としてしっかりと対応していくことで、改善されることだと思います。

昨年の8月に市民会館で、約8カ国の方々に参加していただき、ワールドフェスタを開催しました。屋外イベントでは音響などの課題が生じますが、屋内開催にすることで天気や気温に関係なく、参加者の皆さまに思う存分伝統の踊りや歌を披露していただくことができました。また、ブースでは前述の課題について外国の方への対応も実施しました。

このような事業を行っている、外国の方の対応をしている企業からよく声を掛けていただきます。自動車学校さんは、ベトナムやタイの方向けの教習を行われています。また、アイシンでは同時通訳機を開発しており、そのテスト運用としてイベントで使用させていただきました。国内で国際奉仕活動を行うことで、このような企業との連携が生まれ、結果として企業への貢献にもつながったのではないかと考えています。

イベントに参加していただいた外国の方に「現在、自国で困っていること」について書き出してもらいました。その中で最も多かった意見は、子どもから大人まで

共通して「日本のトイレが欲しい」というものでした。このように海外の方への意見を聞いておくことで、海外で国際奉仕活動をする際の参考になります。相手国の方々が本当に必要としているものを提供することこそ、国際奉仕の本質であると考えます。また、イベントを通じてロータリークラブの活動に興味を持ってくくださる方もおり、国内での国際奉仕活動が結果的に会員増強にもつながりました。

2023年の統計によると、愛知県の外国人の数は、ブラジルの方が約20%と圧倒的に多く、その次にベトナム、中国、フィリピンとアジア圏の方が多い状況です。愛知県には約31万人の外国の方が生活されており、豊橋は名古屋に次いで2番目に外国の方の数が多くなっています。これは製造業の会社が東三河や西三河に多いことが関係していると思われます。

また、最近のニュースでは外国人による事件が頻繁に報道されています。インバウンドで日本が盛り上がるのは良いことですが、様々なトラブルも発生しているので、この様な対応もロータリークラブが国内でできる国際奉仕活動として行っていくのも良いと思います。

国内でイベントを開催するだけでも、多様な人々が集まり、自然な形で交流が生まれます。そういったことをきっかけに相互理解を深めていくのも良いと思います。今後も海外での国際奉仕活動を軸にしつつ、国内での国際奉仕活動も積極的に推進していきたいと考えています。

卓話者紹介・主旨説明

笠原 元樹 国際奉仕委員長



豊橋RCはタイ国ベンジャシリRCと共同でチェンライ県ラックペンディング村にて山岳民族定住化支援活動を行っており、活動を始めた1998年当時は約40世帯250名だった人口が、現在では約130世帯980名まで増加しています。約25年の歳月をかけて支援を続けた結果、大勢の人々に変化をもたらし、文化や歴史の発端にまで寄与する本事業は、豊橋RCの誇るべき活動の一つだと感じています。

本日は、地区国際奉仕委員を務められている岡崎城南RCの筒井健様をお招きして、他クラブで行われている国際奉仕活動を紹介していただきたいと思います。約80カ国、2万千人の外国人が住んでいる豊橋で活動している我々の気付きになればと思います。

創立75周年記念実行委員会 報告

記念事業① 部会長 伊藤 恭三 会員

今月の7日に小学校52校での夢ギフト講演を無事に終えることができました。ご協力いただいた会員の皆さま本当にありがとうございました。

豊橋交響楽団創立60周年について 下谷 剛嗣 氏



豊橋交響楽団は今年創立60周年を迎え、愛知県芸術劇場での定期演奏会などの大きなイベントをいくつか企画いたしました。行事を行うにあたり「豊橋の文化を発信したい」「音楽の力を通して世界平和に貢献したい」という目標を立てました。世界平和について、協力することの大切さと美しさを教えてくれるのは音楽ではないかと思います。そんな思いを胸に今後も頑張りますので、ご理解、ご支援を賜れば幸いです。

会長挨拶 紅林 友昭 会長

ロータリーの徽章についてお話しします。ロータリーの歯車は「誇りのシンボル」と呼ばれています。1905年、シカゴRCの5人目の会員である印刷屋のハリー・ラグルスのアイディアで、彫刻家モンタギューM.ベアが13本の輻（スポーク）のある馬車の車輪をクラブ徽章として描きました。その後、改良が重ねられ、1911年には全米ロータリークラブ連合会が歯車を徽章の基本要素とすることを決定しました。1912年のダールズ国際大会では徽章の基本原則が定義され、1918年頃まで各クラブが異なるデザインを使用していました。この混乱を解決するため、シカゴRCのチャールズ・マッキントッシュとダールズ・ロータリークラブのオスカー・ビョルゲが徽章の規格化を担当しました。ビョルゲは6本の輻と24の輪歯の徽章デザインを作成し、1924年にロサンゼルスRCのウィル R. フォーカーが歯車の中央に楔穴を追加することで、歯車が動くことを表現しました。そして1929年、楔穴つきの徽章が正式に承認されました。長年にわたり、歯車のみがロータリーのロゴとして使用されてきましたが、2013年には視認性を向上させるため、歯車の左隣に「Rotary」の文字を加えた現在の公式ロゴが採用されました。このように、ロータリーの徽章は時代とともに進化し続けています。

最後に、かつて弊社の醤油工場にあった6本の輻の歯車をモニュメントとして残そうとしましたが、重量と保管場所の問題で廃棄となりました。株式会社紅久様に引き取っていただき、三浦会員には大変お世話になりました。



会長報告

ございません。

幹事報告 青木 良浩 幹事

1. 松本南RCよりWeeklyが届きました。
2. 例会終了後に4階グリーンルームにて予備理事会を開催します。
3. 次週はクラブフォーラム（夜間例会）となります。

ニコニコBOX

松岡 真由美 ニコニコ委員長

- 地区国際奉仕委員、岡崎城南RC簡井健様、豊橋RCの例会へようこそ。卓話を楽しみにしています
紅林友昭 会長 青木良浩 幹事
- 本日の卓話者、簡井健様ようこそ 岩瀬 清 会員
- 本日の例会を担当させていただきます
笠原 元樹 国際奉仕委員長
- 来る2月23日、世界初のロータリークラブがシカゴで創立されました。120周年の記念すべき日を祝って
紅林友昭 会長 青木良浩 幹事
- 本日の例会を楽しみにしています
高山 景一 佐々木利政 松坂 良太 岩瀬 清 井上 泰宏 井口 貴嗣 伊藤 恭三 山本 勘司 植村 忠慶 金子 幸義 各会員
- 豊橋交響楽団音楽監督下谷剛嗣様、創立60周年おめでとうございます。更なる活発なご活動を楽しみにしております
紅林友昭 会長 青木良浩 幹事
- 下谷剛嗣様、豊橋RCの例会へようこそ。豊橋60周年おめでとうございます 高須 博久 S.A.A.
- 下谷先生、ようこそ。例会をお楽しみください
神野 紀郎 渡部 茂久 福井 敬 山本 光伸 佐藤 裕彦 久保田 充三 宮本 順子 河合 珠美 各会員
- 先週のインターアクト卒業式に参加させていただき、ありがとうございました 間瀬 有実子 会員（蒲郡RC）
- 創立75周年記念事業「夢ギフト講演」の報告をさせていただきました。会員の皆さま、ご協力ありがとうございました
伊藤 恭三 創立75周年記念事業実行委員
- 「豊橋市電を愛する会」の総会を開催いたしました。同会は豊橋RCの社会奉仕委員会が発端で設立されました
高須 博久 会員
- 先週末、UST（ユナイテッド・スノー・ツアー）を開催。他クラブ会員を含め、合計18名で白馬に行きました
宮田 正人 権田 隆実 松坂 良太 杉田 洋 笠原 元樹 各会員 （順不同）

100万ドルの食事について 高須 博久 S.A.A.

「100万ドルの食事」は、ロータリーの会員が50万人程の時代に、食事代を2ドルを節約して集めた100万ドルをロータリー財団への寄付や、様々な奉仕活動に使ったことから生まれた言葉です。

〈本日の100万ドルのお食事〉

麻婆飯（中辛）・ザーサイ・コーンスープ・杏仁豆腐

お誕生日おめでとうございます

杉田 洋 会員（2月20日） 佐藤 裕彦 会員（2月20日）

歌

ソングリーダー 久保田 充三 会員

「スキーの歌」

本日のゲスト

地区国際奉仕委員 簡井 健氏（株式会社MSA 代表取締役）
豊橋交響楽団 音楽監督 下谷 剛嗣 氏

出席報告

神谷 君和 出席委員

当日出席者	64名	計算会員数	91名中27名欠席
総会員数	110名	出席率	70.33%

例会予定

次のプログラム

2月27日（木）クラブ・フォーラム「国際奉仕」（夜間）

- 3月6日（木）地区出向者報告
- 3月13日（木）ファミリーデー
- 3月20日（木）休会

写真の閲覧はこちらから▶

事務局：豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内

